

支線バス利用促進策の実施方針（R8年度）

参考 1

1 お試し乗車券による運賃無料キャンペーン

- 支線バスは、バス路線のない地域に新設・延伸するため、自動車利用が中心の暮らしから、バスに乗る習慣を形成していくことが重要
- まずは支線バスを「知ってもらう」「乗って体験してもらう」きっかけを提供し、習慣づくりに向けた取り組みとして、一定期間に複数回利用が可能となるお試し乗車券を配布し、定着に向けた利用促進を図る

<お試し乗車券>



実施概要

【対象】 運行中の支線バス全線

【期間】 上半期・下半期それぞれ2か月間（計4か月）

【利用方法（運賃無料）】

お試し乗車券を指定ボックス（運賃箱付近）に入れて降車

【お試し乗車券の入手方法】

支線バスの車内、沿線の公共施設や一部の商業施設・病院等に設置

2 鉄道と支線バスの乗り継ぎ割引

- 公共交通全体の利用促進の観点から、多くの支線バスが駅に接続している特長を活かした利用促進策として、鉄道と支線バスを組み合わせる利用する場合の支線バス運賃を半額割引とし、沿線だけでなく、広域からの支線バス利用の促進を図る

利用履歴証 (駅発券機で出力)



スマートフォン決済画面 (ウォレットアプリ)



実施概要

【対象】 駅に接続する支線バス

【期間】 上半期のお試し無料キャンペーン終了後

～ 令和9年3月31日（土）

【利用方法（運賃半額割引）】

鉄道を利用した後に支線バスを利用する場合、駅発券機で印刷できるICカード利用明細やスマートフォンでの決済画面等を支線バスの降車時に運転手に提示

【参考】バス路線再編の実施状況

再編後のバスネットワーク (10方面/17支線)



全体の効果

路線バスの運行区間
16km増
(340km⇒356km)

路線バスが接続する駅
4駅増
(33駅中10駅⇒14駅)

公共交通アクセス圏人口
約1.7万人増
(54.3万人⇒56.0万人)

乗換なしで病院に行ける
バス路線の沿線人口
約5万人増

【参考】支線バスの利用状況

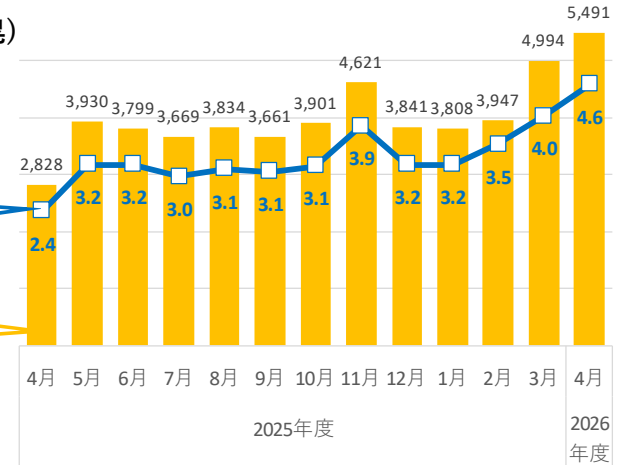
- 利用者数は、1便あたり2～5人程度と少ない状況であり、この水準では、多くの路線は収支率が10～20%の見通し
- 一方、11/3・4に実施した運賃無料DAYでは、5路線合計で、祝日の11/3は前週日曜日の6.2倍、平日の11/4は前週火曜日の3.2倍となり、大きな潜在需要を確認
- また、妹尾・北長瀬線、妹尾・岡南線など、一部の路線で今年に入ってから増加傾向

【F01】妹尾・北長瀬線(八晃)

R7.4.1～

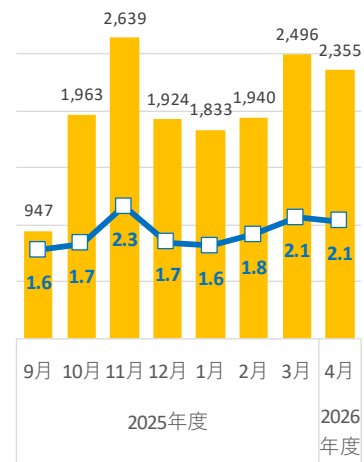
1便あたり利用者数
(人/便)

月あたり利用者数
(人/月)



【F02】妹尾・岡南線(八晃)

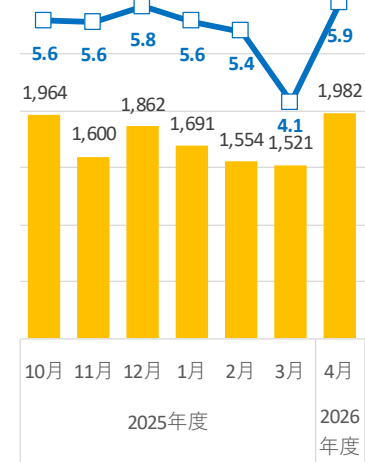
R7.9.15～



【F03】高島・旭川荘線(両備)

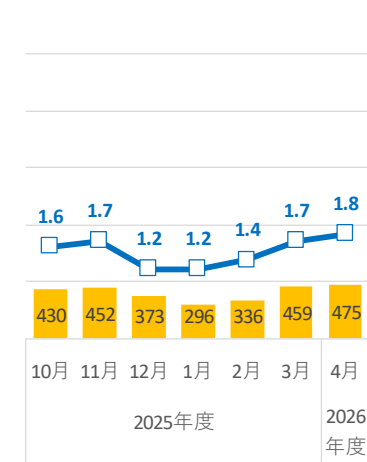
※平日のみ運行

R7.10.1～



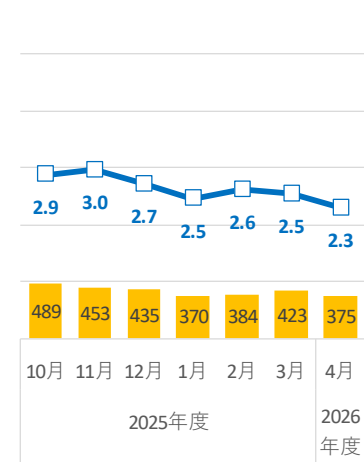
【F04】高島・備前原線(両備)

R7.10.1～



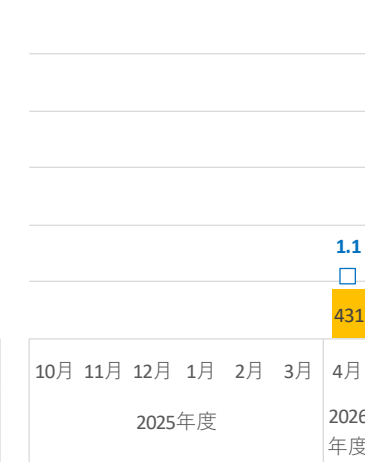
【F05】東山・操南台団地線(両備)

R7.10.1～



【F06】庭瀬循環線(両備)

R8.4.1～



【F07】芳泉・岡南線(岡電)

R8.4.1～

